

自動車安全運転シンポジウム2024

「業務ドライバーが安全運転をながく続けるために」 開催報告

全体概要

日時 : 2024年11月12日 (火) 13:20~15:30
主催 : 自動車安全運転センター
後援 : 警察庁
開催方法 : YouTube Liveでのオンライン配信 (参加費無料)
アーカイブ配信 (11月18日~12月16日)
配信会場 : 一橋講堂

プログラム詳細

13:20-13:25 開会の辞

(5分) ■挨拶 : 自動車安全運転センター 理事長 種谷 良二

13:25-13:50 基調講演: 運転寿命延伸のためのエビデンス

(25分) ■講演 : 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター長 島田 裕之

13:50-14:05 講演1: 機能低下とメタ認知

(15分) ■講演 : 近畿大学 生物理工学部 准教授 島崎 敢

14:05-14:20 講演2: 高齢の業務ドライバーによる交通事故の状況

(15分) ■講演 : 警察庁 交通局 交通企画課 交通安全企画官 牧 丈二

14:20-14:35 講演3: 企業における安全運転管理と交通安全教育

(15分) ■講演 : 株式会社ムジコ・クリエイト 東京営業所 所長 野藤 智

14:35-14:45 講演4: 高齢者の安全運転管理 – 研究からの示唆 –

(15分) ■講演 : 自動車安全運転センター 総務部 調査役 (調査研究担当) 小菅 律

14:45-14:50 休憩

14:50-15:25 パネルディスカッション

(35分) ■コーディネーター : 島田 裕之
■パネリスト : 島崎 敢、牧 丈二、野藤 智、小菅 律

15:25-15:30 閉会

(5分) ■MCよりアナウンス : 順次視聴画面オフ ※事後アンケート、YouTubeアーカイブ配信のご案内

基調講演：運転寿命延伸のためのエビデンス

講演：国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター長 島田 裕之 氏

▼高齢ドライバー数は上昇し続け、高齢者が起こす相対的な事故割合が上昇している。

交通事故抑制のために運転の中断が推進されているが、運転の中断に伴って要介護状態に陥るリスクは上昇し、認知症や死亡リスクが上昇することも明らかとされている。

そのため、高齢期における健康保持の観点からみると、安全に運転ができるのであれば継続することが望ましいと考えられる。安全に運転を行うために安全運転技能の向上と安全運転サポート車の普及が望まれる。

安全運転技能の向上のために実車でトレーニングの有効性が確認されており、

事故の抑制に対する効果検証が進んでいる。

また、実車トレーニングの実施によって自動車教習指導員から客観的に運転の継続可否の判断が可能となり、運転の中断支援に向けた取り組みにもつながる。

今後は、高齢ドライバーの事故抑制に効果的な方法の普及が必要であり、

産官学連携による取り組みの推進が望まれる。



講演 1 : 機能低下とメタ認知

講演 : 近畿大学 生物理工学部 准教授 島崎 敢 氏

▼高齢ドライバーは一般に「事故を多く起こす危険な存在」として認識されがちだが、データを見ると実態は異なる。高齢者の交通事故死者数は多いが、加害者としてではなく、歩行中や自転車乗用中の死亡が多い。また、自動車運転中の事故でも単独事故の割合が高く、他者への加害性は若年層と比べて低い。重要なのは認知機能の低下とメタ認知能力（自分の状態を客観的に把握する能力で補償行動の基本となる）の関係である。研究では、TMTとハザード知覚テストに対する自己評価を用いて認知機能とメタ認知能力を測定し、実際の運転評価と比較した。その結果、認知機能が低下していても、メタ認知能力が高ければ安全な運転が可能であることが示唆された。今後の課題は、メタ認知能力の維持・向上方法の検討と、運転をしなくてもQOLを維持できる社会システムの構築である。単なる移動手段の確保ではなく、自由な外出を可能にする環境整備が重要となる。高齢ドライバーの認知機能や身体機能の低下は個人差が大きく、居住環境も多様である。そのため、年齢による一律の制限ではなく、個々のメタ認知能力や機能低下の状態、生活環境を総合的に考慮した個別的な対応が求められる。



講演 2 : 高齢の業務ドライバーによる交通事故の状況

講演 : 警察庁 交通局 交通企画課 交通安全企画官 牧 丈二 氏

▼75歳以上の高齢運転者による交通死亡事故件数は減少傾向にあるものの、直近3年間は増加している。運転免許保有者当たりの交通死亡事故件数では、75歳から大きく増加していく傾向にあり、その要因はハンドル操作やブレーキとアクセルの踏み間違いといった「操作不適」が最も多い。一方、事業用自動車による交通死亡・重傷事故は緩やかな増加傾向にあり、「貨物」が約7割を占めている。自家用自動車と比較して夜間に発生する割合が多く、事故の相手方が車両の場合は追突、人の場合は路上横臥の割合が多いのが特徴。事業用自動車事故における75歳以上の高齢運転者の構成率は4パーセントと低く、「タクシー・ハイヤー」における構成率が最も高い11.6パーセントである。75歳以上運転の事業用自動車関連事故のうち、約8割が第1当事者であり、その相手方は約4割が「歩行者」で、用途別では自家用自動車と比較して「タクシー・ハイヤー」では路上横臥、貨物では横断中の割合が多くなっており、高齢の業務ドライバーには、自身が運転する自動車の走行場所や時間帯等の特徴を踏まえつつ、特に歩行者との事故に留意するとともに、改めて交通法規を遵守した運転を意識してもらうことが大切である。



講演3：企業における安全運転管理と交通安全教育

講演：株式会社ムジコ・クリエイト 東京営業所 所長 野藤 智 氏

▼安全運転管理者制度は、1965年に法制化され事業所等における安全運転の確保を図るための制度である。道路交通法では、内閣府令で定める台数以上の自動車の使用の本拠ごとに、自動車の使用者に代わって安全運転に必要な業務を行う者として、安全運転管理者の選任を義務付けている。企業ドライバーの交通事故の予防、不安全行動の削減には企業における安全運転管理は欠かすことのできないものである。

安全運転管理者の業務は9項目あり、2022年4月には酒気帯びの有無の確認及び記録の保存、2023年12月にアルコール検知器の使用等が追加された。

企業は、適正な安全運転管理を行うことで交通事故発生リスクを低減していかなければならない。また、交通安全教育も交通事故予防には欠かせない活動である。

安全運転管理者は、「交通安全教育指針」に基づいた効果的な交通安全教育を行うことが望まれる。

企業ドライバーは、交通社会の一員として自己の安全のみならず他の人々及び社会の安全に自主的に貢献することが要求される。

安全運転管理者は、運転者の安全な運転と安全運転意識を維持・向上を図るためにも適正な管理と教育を行わなければならないことは言うまでもない。



講演4：高齢者の安全運転管理—研究からの示唆—

講演：自動車安全運転センター 総務部 調査役（調査研究担当） 小菅 律

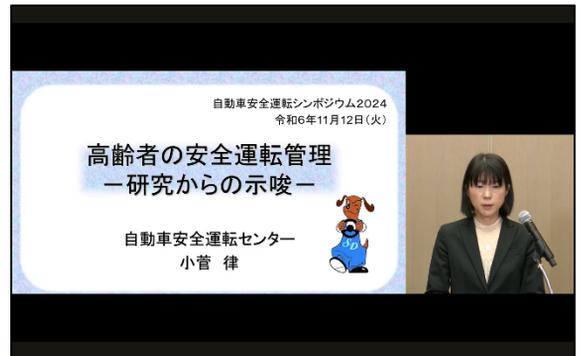
▼科学警察研究所で行った、一般高齢運転者を対象とした運転の継続・中止および安全運転に影響する要因に関する研究から、安全運転管理のヒントとなる知見を紹介した。この研究は、2回調査を実施し、1回目調査の2年後の2回目調査時点で、運転を継続していたが事故に関与した群、無事故で運転を続けていた群、運転をやめた群に分け、各群の1回目調査時点における特徴を検証したものである。

まず、事故に関与した人は、その後も事故に関与する可能性が高かったという結果から、運転者の事故歴の把握がその後の事故予防に重要であることが示された。

第二に、認知的処理速度検査結果が低かった人がその後運転をやめていたという結果から、検査結果を知ったことから機能低下を自覚して自発的に運転をやめたことが示されており、機能の低下の自覚の重要性が示唆された。

第三に、2回の調査の間で運転免許を更新する機会があった人は無事故で運転を続けていたことから、自分の安全運転の証明を欲しており、それが運転者の誇り・自信につながる可能性が示された。

このように、高齢者の安全運転管理においては、事故歴・運転状況の把握とそれに基づく指導、機能低下の自覚を促すこと、安全運転の誇りと自信の醸成が重要であることが重要といえる。



パネルディスカッション

コーディネーター：国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター長 島田 裕之

パネリスト：近畿大学 生物理工学部 准教授 島崎 敢

パネリスト：警察庁 交通局 交通企画課 交通安全企画官 牧 丈二

パネリスト：株式会社ムジコ・クリエイト 東京営業所 所長 野藤 智

パネリスト：自動車安全運転センター 総務部 調査役（調査研究担当） 小菅 律

自動車安全運転
シンポジウム2024

パネルディスカッション

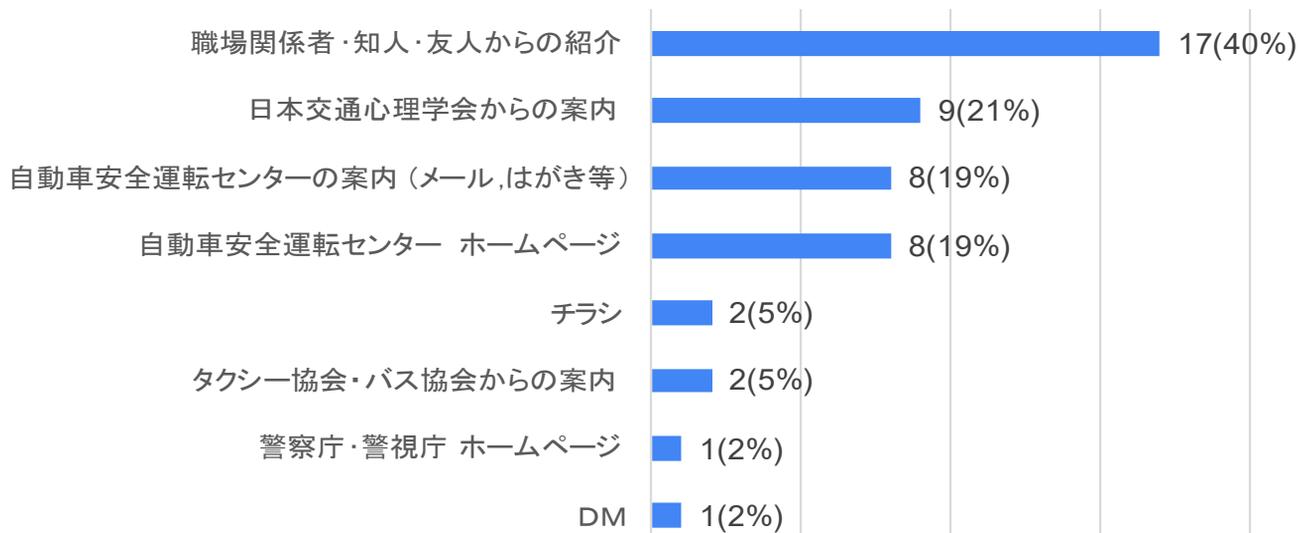
コーディネーター	国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター長 島田 裕之 氏
パネリスト	近畿大学生物理工学部准教授 島崎 敢 氏
パネリスト	警察庁交通局交通企画課交通安全企画官 牧 丈二 氏
パネリスト	株式会社ムジコ・クリエイト東京営業所長 野藤 智 氏
パネリスト	自動車安全運転センター総務部調査役(調査研究担当) 小菅 律



アンケート結果抜粋

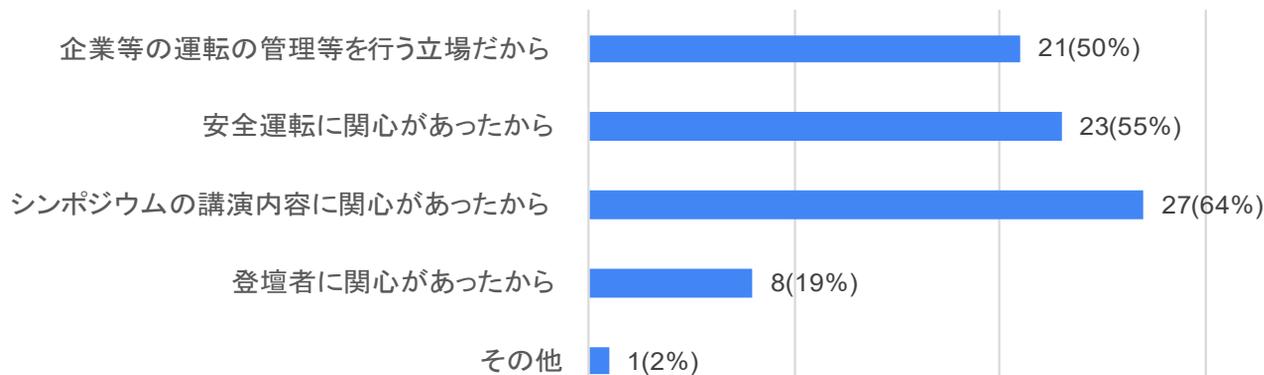
1. 今回のシンポジウムを何でお知りになりましたか。(複数回答可)

42件の回答



2. シンポジウムにご参加された動機をお聞かせください。(複数回答可)

42件の回答



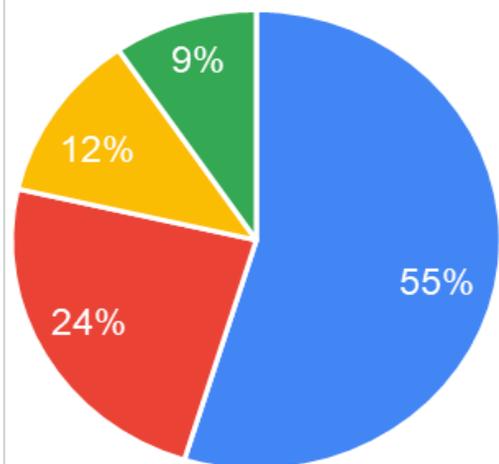
3. シンポジウムに参加してどのように感じましたか。

42件の回答

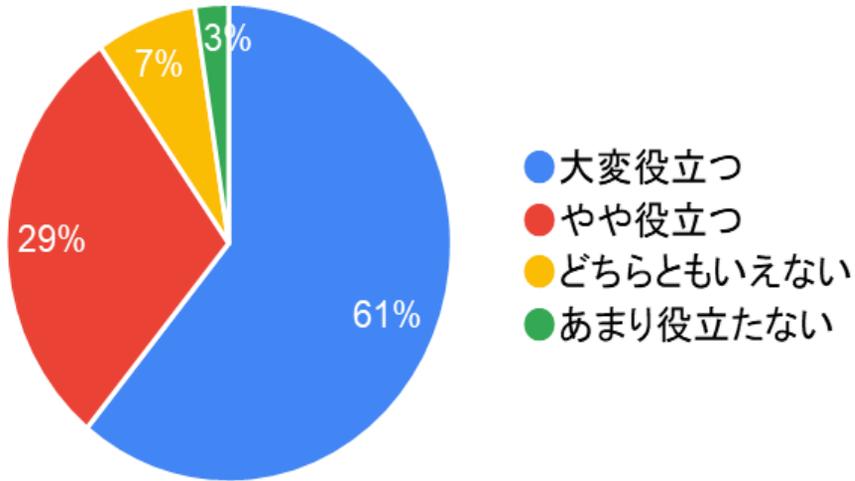
安全運転に対する興味・関心が

- 強くなった
- やや強くなった
- 変わらなかった
- その他

高齢者が、必ずしも運転適性に欠けるのではない事、むしろ如何に現状認識を運転者本人に自覚させるかが重要であるかがわかった／とても参考になるお話が沢山あり、参考にさせていただきます／安全文化の重要性を再認識／当社の乗務員についても年齢の割合で高齢者が多く関心がある



4. シンポジウムの内容はあなたにとって役に立つ内容でしたか。
41件の回答



5. シンポジウムの内容は社会全体にとって役に立つ内容でしたか。
42件の回答

